

Monthly
Culture Journal

インビテーション

Invitation

10

2005年 月号

No.32 680yen

ロングインタビュー
浅野忠信

加瀬亮×栗山千明×李相日
本広克行×瑛太×上野樹里ほか
スタジオジブリ：鈴木敏夫も撮った!!

あの映画監督が
フアツション撮影!?

矢沢あい「バラダイスキス」からXbox360まで

アニメ&ゲーム秋・冬の陣

星野真里「裸心」

菊地成孔が
語るゴダール

iTunesで音楽が変わる!

糸井重里「T-1」の野望

イサム・ノグチを往く

土や大地の匂いに彩られる スペインの芸術と創造

ピカソにミロにダリ、建築ではガウディ、文学ではセルバンテス、映画ではベドロ・アルモドバル。スペインには素晴らしい芸術と創造性があり、そのすべてが土や太陽の匂いに彩られている。スペインのデザインとファッションにフォーカスしたふたつの展覧会が、埼玉県立近代美術館で開催されている。「ファッションとスペインの文化」展は、この国の文化が世界のモードに与えた影響をテーマに、バレンシアガ、ロエベ、シャネル、サンローラン、ディオール、ラクローア、ゴルチエらのドレス・バッグ・帽子・靴105点が展示され、またそのデザインの源泉となったスペイン絵画・写真・民族衣装が披露されている。ゴヤ、ペラス

ケスの描いた女王やマハの衣装、フラメンコ、闘牛、といったモチーフの持つ美と力がパリを魅了せずになかったことを理解できる。

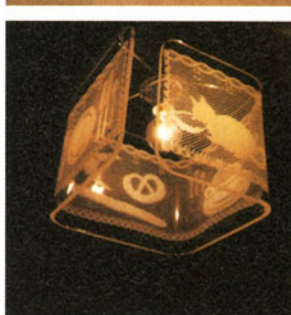
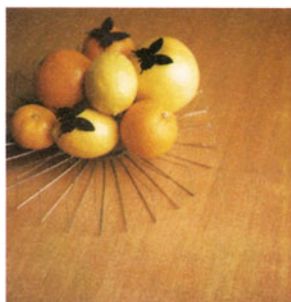
『300%スバニッシュ・デザイン』展では、椅子・照明・ポスター各100点、合わせて300作品を時系列に沿って展示し、ここ100年間のスペインデザインの歴史を振り返る試み。ダリのシュールな照明、画家でファッションデザイナーであったフォルトゥーニのランプ、ガウディの椅子など、貴重な製品の展示もある。かつての超大国スペインの底力や骨太の美、大らかさと繊細さ「スペイン的なもの」が、観る人の創造性もかきたてる、物量ともに優れたエキシビジョンだ。



1_ マヌエル・ベルテガス『水玉模様のカクテル・ドレス』(1981)
2_ ジャン＝ポール・ゴルチエ『イヴニング・ドレス<ミロ>』(2003) 3_ フリオ・ロメロ・デ・トレス『パストラー・インベリオ』(1922) 4_ アントニ・ガウディ『カルベ』(1902) 5_ ジョアン・ミロ『フォッシュの太陽の賛歌』(1975) 展覧会『ファッションとスペインの文化』/『300%スバニッシュ・デザイン』は、10月10日まで埼玉県立近代美術館にて開催。
www.saitama-jor.jp/~momas/

地域独自の文化や産業が デザインとミックス! キッチンで楽しい時間を!

東京に暮らす人は、もっと日本各地の独自の文化や産業の力に注目すべき、と感じる昨今。地方の実力が発揮される画期的なプロジェクトに注目したい。この10月、東京・青山でお披露目されるのは、「おいしいキッチン」をテーマに、福井県の職人的技術を持つ5つの会社と、実力派から若手までトレンドなデザイナーがコラボしたプロジェクト。日本の物作りの伝統と、デザイナー達のユニークな感性が結合し、個性的なグッズが誕生した。発想力と技術力を最大限に発揮できる5つのチームが創りあげたのは、家具から布巾まで、今っぽくてステキなアイデアもさることながら、日本の職人的な物作りの実力ってすごい、と実感できるはず。買えるのも嬉しい、この企画は継続的に展開される予定だ。



「おいしいキッチン」展示会: 10月6～10日まで、ふくい南青山291 (tel.03-5778-0291) にて開催。
／「おいしいキッチン」はじめました! 10月6日にラトルズより発売予定。1,600円(税)